

平成30年度 JERT主催「救急撮影講習会 in Yokohama」参加記

済生会横浜市東部病院 小川 唯

平成31年1月19日、鶴見大学会館にて開催された「救急撮影講習会 in Yokohama—初級編 もう当直なんて怖くない！—」を受講した。

私は技師歴3年目になるが、今回初めて日本救急撮影技師認定機構主催の講習会に参加した。今まで救急撮影の勉強会に参加することがあり、「JPTEC・JATEC・PTD・Primary survey・FAST・FACTなど」さまざまなワードを耳にすることがあったが正直あまり言葉の詳しい意味を知らなかった。この講習会を通して、これらの言葉の意味を学ぶことはもちろんのこと、当直中に出くわしたことのある症例や出くわしたときにどんなことに注意しなければならないのかなど知っておくべきことばかりであった。

当日は大きく分けて3部構成になっており、1つ目の〈基礎知識〉では、私たちの病院へ搬送されてくる前に行われている病院前救護活動や Primary survey における胸部・骨盤撮影の目的、注意点、読影ポイントを学ぶことができた。急いでいるときでもアーチファクトの回避や正面であるかの確認、またカセットの挿入時には患者の観察が欠かせないこと再認識することができた。

2つ目の〈救急疾患の知識・撮影技術・画像認識〉では、知っておくべき画像所見や緊急性を伴う疾患に加え、急性期脳梗塞の診断における CT - Perfusion の有用性や「NIHSS・mRS」による脳卒中の診断スケール、血栓溶解療法 (rt-PA) や血栓回収療法など脳梗塞の診断から治療まで詳細に学ぶことができた。

3つ目の〈安全管理〉では、外傷患者の取り扱い、脳出血患者の取り扱いや患者急変時における他職種との連携力を学ぶことができた。外傷患者にとって移動をすることは大変危険を伴っており、ログロール・フラットリフトによる安全な移動をすることはもちろん、一発でポジショニングを行うことで移動回数を減らすことも重要である。また、外傷死の三徴を防ぐためには保温が重要であり、外傷患者の検査時には保温を忘れないこと、可能な範囲で検査室内の温度を調整することが必要である。

この講習会を通して、日々の業務の中で救急診療において共通目的である PTD (防ぎ得た外傷死) の減少に、診療放射線技師も重要な役割を担っていることを忘れてはならないと思った。

最後に、このような貴重な講習会を開催してくださった機構の方々、当日会場の運営・準備をされたスタッフの方々に感謝申し上げます。

平成31年2月吉日

